

まちの保健室を起点とした地域活動と 外来受診の分析から新たな地域戦略を！

千葉 瑛斗

(医療法人溪仁会定山溪病院 経営管理部 経営管理課 主任)

医療経営士3級
認定登録番号：
30110025010274

【目的】

定山溪病院では、当院があるA地区において令和4年度から「まちの保健室」を実施してきた。このまちの保健室の実施が、当該地域住民の外来受診行動に与えた影響を評価し、新たに、B地区における「まちの保健室」実現の可能性について地域分析の結果とあわせて検証する。

【実施方法】

調査対象期間を令和2年度から令和6年度までとし、「まちの保健室」への参加者の①外来受診状況、②参加者の声、③A地区及びB地区における75歳以上の外来受診状況、④当院が実施している外来送迎の実績等を調査し、⑤B地区の地域分析を実施した。

【実施期間】

令和7年4月～8月

【考察・結果】

令和2年と令和6年の比較において、①「まちの保健室」の外来受診状況は、受診者・受診件数ともに1.6倍に増加していた。②参加者の声からは「まちの保健室」に対するポジティブな評価、受診動機等が聞かれた。③A地区及びB地区における75歳以上の外来受診状況は、A地区では受診者数・受診件数が増加していたが、B地区ではA地区と比較して微増にとどまった。④外来送迎件数は50倍以上の増加であり、とくにA地区での増加率が高かった。⑤B地区では過去6つの医療機関が閉鎖し新規開院

はなく、高齢者人口は7,000名、高齢化率は39.9%と高い。さらに公共交通機関の減便、冬季の除雪状況などが通院の制限因子となっており、国道を境にした高低差からバス停までの移動も高齢者にとって大きな負担であることが明らかとなった。

調査結果①～④から、A地区で実施してきた「まちの保健室」は参加者・地域住民にとって当院をこれまで以上に知る機会となり、受診動機に繋がったと考えられる。また、「まちの保健室」を実施してきたA地区と未実施のB地区を比較すると、その実施が受診者数・受診件数増加に寄与したと評価できる。B地区の地域分析からは、「まちの保健室」を起点とすることで、A地区と同様に外来受診者数・件数の増加を見込める要因が導き出された。

B地区においては医療アクセス上の課題が明確となった。定山溪病院としては、巡回送迎サービスの新設や同地区へのクリニック開院の検討を視野に入れ、地域住民との双方向のやり取りを通じて課題解決を図りながら、定山溪病院のあるべき姿を模索していきたい。

今回の発表では、これらの調査結果に加え、本件の最新状況についても報告する予定である。

